

日本の未来を見据えて撃つ！
そんなあなたにホットな話題をお送りする
最先端オピニオン紙

日本シティジャーナル

発行：ネットハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉 14-3
TEL 0476-89-2333 FAX 0476-89-2334
[平日：10:00～19:00、土曜：12:00～17:00]
<http://www.nihoncity.com>
成田市、佐倉市、印西市、富里市、香取市、山武市、船橋市
千葉市（花見川区、美浜区）、習志野市、八千代市、四街道市
酒々井町、栄町、小林、安良、多古町、横芝光町、芝山町、神崎町

発行部数：500,000部

三種の神器はユダヤルーツか！ 記紀の記述とヘブライ語の解釈から真実を解明する

「三種の神器」のあらまし

日本人なら一度は聞いたことがある「三種の神器」。それは、天皇家に受け継がれてきた秘宝である八咫鏡、八咫瓊曲玉、草薙剣を指します。「みくさのかむだから」とも呼ばれるこれらの神器の真相は、皇族をはじめ、実物を見たという人が皆無と言われ、例え存在したとしても誰も名乗り出ないことから、多くの謎に包まれています。

「三種の神器」という言葉は日本書紀や古事記などの古文書には用いられず、日本書紀では「三種宝物」と称されています。それらの宝物を所持することは、正統な皇位継承者である証であり、皇室の大切な御守りとして、古代より極めて重要な位置付けを占めました。そして歴史の流れの中で、これら「三種宝物」には神聖な意味が加えられ、いつしか「三種の神器」と呼ばれるようになったのです。

伊勢神宮においては「三種の神器」のひとつである「八咫鏡」が、皇位継承を象徴する御神体として、古くから内宮にある正殿の奥に宝蔵されています。そして 20 年に一度行われる遷宮の際には、神宝が白い布で覆われ、夜間に限り移動されるという、最も重要な儀式が執り行われてきました。また、他のふたつの神器のうち、「草薙剣」は熱田神宮に、そして「八咫瓊曲玉」は宮中三殿の賢所に安置されていると伝承されています。しかしながら、これら「三種の神器」は今日まで何人も見る事が許されないため、その存在も含め、詳細は定かではありません。つまり「三種の神器」とは、實在

そのものが不透明であり、神器の詳細や製作の趣旨などについても検証されないまま、今日に至っているのです。

天岩戸神話に遡る神器のルーツ

「三種の神器」のルーツは天孫降臨の歴史を遡り、天岩戸神話や国生み神話の時代に由来します。岩戸が閉ざされて暗闇が訪れた際、岩屋から出ることを拒む天照大神に困り果てた八百万の神々は、協議した結果、宝物を作って木に掲げ、天照大神を誘い出すことにしたのです。まず、鏡作りの職人集団により大きな鏡が鑄造され、玉造部の遠祖に導かれる別の職人集団は、曲玉を作りました。更に、青和弊（あおにきて）・白和弊（しろにきて）の木綿で作られた供え物も粟国忌部の遠祖である天日鷲が作り、天香山の真坂樹を根元から掘り起こして切った枝に、「八咫鏡」、「八咫瓊曲玉」と共に掛けて、岩屋の前に立てたのです。

そして岩戸の前で一同が祝詞をあげ、神事を執り行う最中、アメノウズメが楽しげに踊りました。その騒ぎが気になり、また、美しい祝詞の言葉にも心を留められた天照大神は、岩戸を少し開けて外を窺われたのです。ちょうどその時、岩戸の陰に隠れていた手力雄神は天照大神の手をとり、岩屋から誘い出すことに成功したのです。これら物語の詳細は、日本書紀や古事記に記載されています。

天岩戸の舞台となった高天原において数々の宝物が作られた理由は、元来、天照大神を岩屋から誘い出すためでした。「三種の神器」に含まれる「八咫鏡」と「八咫瓊曲玉」は、その為にわざ

とわざと作られ、岩戸の前で執り行われた神事に用いられたのです。それらふたつの神器とは異なり、「草薙剣」はスサノオが八岐大蛇を退治した際に、その尾から取り出した剣です。つまり「三種宝物」のうち、「八咫鏡」と「八咫瓊曲玉」は高天原にて同時期に鑄造された神器であると考えられ、「草薙剣」は明らかにルーツが異なる外来の剣だったのです。八岐大蛇とは、大陸からの巨大な船を象徴した言葉であるとも考えられることから、大蛇の尾とは、その船尾を指していた可能性があります。もし、その船の中に由緒ある神剣が隠されていたとするならば、「草薙剣」は大陸に由来する神宝であった可能性が見えてきます。いずれにしても「草薙剣」とは、高天原の神々によって作られた宝物以前に存在し、不思議な力を持つ神宝として大切に取り扱いわれていた外来の剣であったと想定されます。

高天原とイスラエルの関係

国生み神話と天孫降臨の物語は、アジア大陸から東の島々を探し求めて到来したイスラエルからの渡来者が主人公であるという前提で読み直すと、古代史の流れが少しずつ見えてきます。国家を失ったイスラエルの民が預言者イザヤ一行に導かれ、アジア大陸の沿岸を船で東方に向かって航海しながら東南アジアを迂回し、日本列島の南方から到来したと考えてみましょう。そして大陸を離れて台湾を経由し、更に東方に向かって航海する途中、大陸棚と並行してほぼ一直線に北東方向に連なる島々を見出し、その途中で夏至の日に太陽が天空の頂点を通る、貴重な場所に目を留めたとします。周辺には広大な島が広がり、素晴らしい自然環境にも恵まれていたことから、民が休息する為の一大集落をそこに造成し、重要な分岐点として「高天原」と呼んだとするならば、不思議と神話の世界が現実味を帯びてきます。

神が約束された「東の島々」を目指したイスラエルの民は、太陽が天に高く昇る「高天原」を国生みの出発点として定め、そこにまず結集したのではないのでしょうか。祖国から大勢の宗教リーダーや長老らが海を渡って訪れ、数々の会合が持たれた暁に、満を持してイザヤ（伊弉諾）の一行は命を受け、高天原を出発して大陸棚の端に並ぶ南西諸島沿いを北上したのです。そして本州という大きな陸の壁に到達する手前に淡路島を見出

し、そこを日本列島の地理的な中心と定めたのです。その淡路島を起点として、島々を巡り渡りながら、それらの位置付けを特定するというのが、国生み神話の主旨と考えられます。

アジア大陸より日本列島へ向かう航海路から察するに、高天原は日本列島の南方に位置していたに違はなく、アジア大陸と倭国を結ぶ重要な分岐点であったと考えられることから、その比定地として沖縄の存在が浮かび上がってきます。沖縄を含む琉球の宗教文化には、ユダヤルーツに関連する要素が多く見受けられます。また、女性祭司が中心となる歴史の流れも、天照大神による統治を発端とするだけでなく、国生みの働きの為に大勢の働き人が島を離れ、男性が一時期不在になった古代社会を反映するものと考えられます。また、レイラインと呼ばれる古代の重要拠点を結ぶ線上において、沖縄の那覇と、淡路島の中心となる神籬岩、そして神を意味する青森の八戸（ヤヘ）が一直線に並ぶことから、沖縄の位置付けは重要であったことがわかります。

その高天原において天岩戸事件が生じ、天照大神を誘い出す為に作られたのが、「八咫鏡」と「八咫瓊曲玉」などの神宝です。天孫降臨の際には、「三種宝物」が天照大神から瓊瓊杵尊に授けられ、歴史が大きく動き始めます。そして宝物は徐々に神格化されながら、いつしか「三種の神器」として知られるようになり、皇位継承、かつ国土の支配者の印として天皇家に代々伝わり、天皇制を支える一大要因になります。

高天原から天下り、日本の島々が見出されて国生みが完結しただけでなく、その後、天孫降臨に結び付いたということは、高天原と日本列島が、あくまで別格の位置付けにあったことを意味します。それ故、高天原で作られた「八咫鏡」と「八咫瓊曲玉」は、天からの賜物の象徴として一線が引かれたことでしょう。また、「三種の神器」と呼ばれる神宝の内、「草薙剣」だけは元来、高天原に由来しない神宝であり、おそらく大陸より巨船によって持ち運ばれてきたものと考えられます。

高天原とは、日本へ渡来してきたイスラエル系移民の中継地点という位置付けで歴史を振り返るならば、「三種の神器」のう



神原神社古墳出土 三角縁神獸鏡※ 2

ち、高天原にて作られた「八咫鏡」と「八咫瓊曲玉」は、イスラエル系の神宝と言えるのではないのでしょうか。また、大陸に由来すると考えられる「草薙剣」については、その出自は不透明ながらも、古代の識者が競って崇め求めるだけの不思議な価値がある重大な神宝であり、これもまた、イスラエル系の神宝である可能性があります。果たして「三種の神器」は本当に大陸に由来し、イスラエル系の職人によって製作されたものだったのでしょうか。これまで数々のユダヤルーツが噂されてきた「三種の神器」であるだけに、もう少し掘り下げて検証してみることにしました。

伊勢神宮に秘蔵される「八咫鏡」

天照大神の魂が宿るとされる「八咫鏡」は、岩戸隠れの際、鏡作りの遠祖、天抜戸の子が作ったものであると言い伝えられています。最初に作られた鏡には傷がついてしまったことから、実際には2つ目に作られた鏡が神宝としての「八咫鏡」となり、1つ目は日前神宮にて収蔵されることになりました。「三種神器」の中でもとりわけ「八咫鏡」が重要視されていたことは、瓊瓊杵尊が降臨する際に、その鏡を御自身と違って祀るようにと、天照大神自らが瓊瓊杵尊に命じたことから理解することができます。

「八咫鏡」は、国生みの起点となる高天原で作られたものです。もし、高天原が南西諸島の南、今日の沖縄周辺にあったとするならば、「八咫鏡」を含む数々の神宝は船に乗せられて、内地、すなわち本州まで運搬されてきたこととなります。今日、「八咫鏡」は伊勢神宮にて収蔵されています。その御神体は御桶代（みひしろ）に収められ、更に檣で作られた「御船代」と呼ばれる箱に入れられています。「八咫鏡」を収蔵する箱が「御船代」と呼ばれたのは、神宝が海を渡って運ばれて来ただけでなく、国生みの主人公となった先代の渡

次頁に続く



平原遺跡出土 内行花文鏡（10号鏡）【文化庁所蔵】※ 1



来者らが海人であり、大陸からの渡航者であることを象徴しているのかもしれない。

その後、第 10 代崇神天皇が即位した前 1 世紀、時代が大きく動きます。前 95 年、都が三輪山の麓に遷都した直後から全国的に疫病が蔓延し、国家が危機に直面したのです。宮中に祀られていた天照大神は「同床共殿」と伝承され、それまでは皇祖神として宮中に祀られていました。ところが、その神威を畏れた天皇は、「八咫鏡」を皇居の外に移す決断をしたのです。そして当初、神宝は皇女である豊鍬入姫命に託され、一時、大和の笠縫邑（現在の橿原神社）に祀られることになりました。その後、理想の鎮座地を求めて各地を転々と遷座することとなり、80 年以上の長い年月をかけて最終的に垂仁天皇の時代、倭姫命によって現在の伊勢に鎮座したのです。その結果、多くの元伊勢と呼ばれる、天照大神が一時的に祀られた神社や場所が存在することになりました。そして今日まで「八咫鏡」は、伊勢神宮の内宮に奉安され続いています。

「八咫鏡」の名称は、鏡の大きさを示しているのではないかとされています。日本では一尺は 30cm、その十分の 1 が一寸、すなわち約 3cm となりますが、後漢基準の度量衡によると、一尺は 23cm、一寸は 2.3cm です。咫とは円周の単位であり、径 1 尺の円周を 4 咫としていました。「八咫鏡」の径を文字通り八咫とするならば、その長さは 2 尺、およそ 46cm となります。また、径 1 尺の円周は 3.14 尺であり、それが 4 咫と等しくなることから、1 咫は 0.785 尺と考えることもできます。すると、一咫はおよそ 18 cm となり、その 8 倍となる八咫の円周は約 144cm、それを円周率で割ると 46cm という径になります。

もし、「八咫鏡」の直径が 46cm もあるとするならば、それはとても大きな鏡を意味します。これまで国内で発掘されてきた銅鏡の面径は 20cm 前後が一般的で

す。しかし実際、直径が 46.5cm もある大型内行花文鏡とよばれる青銅鏡も発見されていることから、「八咫鏡」が同等の大きさであった可能性も否定できません。

「八咫鏡」がユダヤルーツであるという噂が絶えない理由は、その大きな円形の鏡の裏にヘブライ語が記されているという証言が複数、言い伝えられてきたからです。文部大臣（現在の文部科学省）のコメントを含め、これまで複数の証言が語り告げられ、実際に見たという人は、鏡のスケッチや文字の詳細までも書き残しています。しかし、誰もが公に名乗り出なかった為、内容を検証する術もなく、信憑性は定かではありません。また、半世紀程前の「東京イブニングニュース」紙には、「八咫鏡」とヘブライ文字の実態について三笠宮殿下が調査すると報じられましたが、その後、殿下からは何ら音沙汰がなかった為、真相は謎に包まれたままです。

それらの証言による、「八咫鏡」の裏には「エヘイエ・アシェル・エヘイエ（我は在りて有る者）」という旧約聖書の出エジプト記に書かれているヘブル語が刻まれているということです。今日、その噂を確認することは極めて難しいことです。それを確認できるのは、天皇陛下しかないのではないのでしょうか。そして結論を既に御存知でられることから、不用意に発言できないのかもしれませんが。火のない所に煙は立たずと言われるとおり、ユダヤルーツである可能性が残されているのです。

「八咫瓊曲玉」がユダヤルーツである理由

天岩戸にて天照大神を誘い出す為に作られた「八咫瓊曲玉」も、「三種の神器」のひとつとして極めて重要な役割を果たしてきました。「八咫瓊曲玉」は神の御魂を象徴し、天皇が保持することにより皇位の証となる神宝でもあることから、今日まで宮中にて祀られてきたのです。「神璽」とも呼ばれる「八咫瓊曲玉」の歴史は古く、天岩戸の事件以前にも「八咫瓊曲玉」と呼ばれる曲玉は既に存在しました。

スサノオが高天原に住む姉の天照を訪ねた際、スサノオを恐れた天照は「八咫瓊の五百箇御統」（イオツミスマル）と呼ばれる曲玉を、みづらや鬘、そして両手に巻きつけ、千本の矢を背負ってスサノオを迎え討とうとした、

という記述が日本書紀にあります。天照大神にとって「八咫瓊曲玉」は、自らを守護するための御守りだったのです。2 神の出会いの後、天照大神の首にかけられていた「八咫瓊曲玉」は、スサノオが剣の代わりに取得して噛み砕いてしまいましたが、スサノオが再度、天上に昇ろうとした時には、羽明玉の神が別の曲玉をスサノオに献上しています。そして天岩戸事件の際には天照大神を岩屋から誘い出す為に、玉造りの遠祖である伊弉諾尊の子、天明玉を中心とする職人集団が新たに「八咫瓊曲玉」を作り、それが「三種の神器」のひとつとなったのです。

「曲玉」は石を磨いて作った装身具のことです。天岩戸の物語においては「曲玉」は、護身用として複数が紐で結ばれ、複数の曲玉からなる宝であったことから、「八咫瓊の五百箇御統」と呼ばれました。「三種の神器」のひとつに数えられる極めて重要な宝であるだけに、その名前の意味は極めて重要です。

「八咫瓊曲玉」の「ヤサカ」は、長さの単位を意味する「咫」（あた、さか）を語源として、「八尺」「八坂」という漢字があてられたのではないかという説があります。前述したとおり、「八尺」はおよそ 144cm です。よって「八咫瓊曲玉」は、とても大きな曲玉を意味することになります。しかし、「八咫鏡」の円周が 144cm であることは理解できても、首飾りや手首周りにつける装身具としては考えられないサイズです。よって、「八尺」とは「五百箇御統」の緒の長さであると解釈したり、単に大きい曲玉という意味に捉えたり、更には「弥栄」（いやさか）が転じたものであるという説もあります。

また、「五百箇」は数の多いことを意味し、「御統」は、それらを緒に貫き、まとめて紐で環状に繋いで首や腕に巻くことができるようにしたものであるという説があります。そして首飾り状のように統一することから「スマル」と呼ぶようになり、そこに神宝としての敬語である「御」をつけて、「ミスマル」と呼ぶようになったというのが、ごく一般的な解釈のようです。

「八咫瓊」と「五百箇御統」という言葉は、実はヘブライ語の名称であることから、原語での意味を知ることにより、神宝の大切な働きを理解することができます。「ヤサカ」はヘブライ語で「神を見る」、「神に期待する」を意味する言葉です。また、ヘブライ語で数字の 5 は、הֵ (heh、ヘ)、「飾り物」は、אוֹת (ot、オッ)、そして「御守り」、「守護」を意味する言葉は、משמר (mishmar、ミシュマル) です。この 3 つのヘブライ語を合成す

ると、הֵ אֹת מִשְׁמָר (ヘオツミシュマル) となり、その発音は「イオツミスマル」とほぼ同一です。「五百箇御統」という名前には、ヘブライ語で「五連飾りの御守り」という意味が込められていたのです。そして、それとほぼ同一の意味を持つ漢字があてられ、「五百箇御統」と書かれるようになったのです。

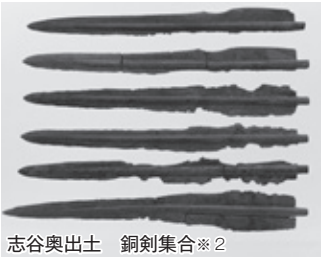
「五百箇御統」とは、外敵から身を守るための 5 連の曲玉からなる御守りの意味です。そして神の救いに大きな期待を込め、神の御加護を信じた結果、「ヤサカ」という言葉で曲玉を形容し、「八咫瓊の五百箇御統」という名称が生まれました。大きな 5 個の「八咫瓊曲玉」を紐に通して輪にし、敵から身を守るために身につけた御守りが「八咫瓊の五百箇御統」です。天照大神自ら護身用として、その御守りを身に纏いました。身の安全を守る約束の印が「八咫瓊の五百箇御統」であることを、ヘブライ語から察することができます。

「草薙剣」と十握剣のルーツ

「草薙剣」は「三種の神器」のひとつとして有名ですが、その他にも、神剣に関する記述が記紀には多数見受けられます。神剣の種類は草薙剣の他に、十握剣と、それよりも短い剣に分けられます。十握剣については国生みの時代まで遡り、剣を身に帯びた伊弉諾尊は、その剣を振り下ろして火の神として知られる軻遇突智（かぐつち）を 3 つに斬り、そこから神々が新たに生まれたとされています。伊弉諾尊は高天原から降臨された神であることから、十握剣とは高天原、もしくは神々が高天原へ到来する以前に、大陸にて作られたこととなります。十握剣とは、元来、神の力の象徴となる聖剣でした。それ故、スサノオが到来した際、天照大神ご自身も「八咫瓊曲玉」を身に纏うだけでなく、更に十握剣、九握剣、八握剣などを身に帯びて、剣の柄を強く握りながらスサノオと対面したのです。

スサノオ自身もその際、十握剣を所有していました。そして、それを見た天照大神より求め取られることとなります。もしかしてスサノオの十握剣は、父、伊弉諾尊から譲り受けた、由緒ある剣であったかもしれません。そして最終的には八岐大蛇を退治する際に、スサノオは身につけていた十握剣をもって大蛇を斬ったのです。そのスサノオの十握剣は、神の力を極めた神剣であり、布都御魂剣とも呼ばれています。その神剣は当初、石上布都魂神社に奉納され、その後、奈良の石上神宮に奉斎されました。

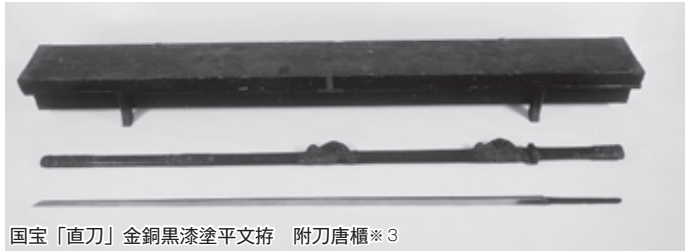
十握剣とは異なり、「草薙剣」はスサノオが大蛇の尾から取り



出した剣であることから、その出自は一線を画しています。出雲国の川の川上にて八岐大蛇と一騎打ちしたスサノオは十握剣をもって大蛇を斬り、その尾から見つけたのが「草薙剣」です。そしてスサノオはその剣の素晴らしさに感動し、「是、神しき剣なり」と語り、天照大神に献上しました。前述したとおり、八岐大蛇とは大陸から到来した巨船を象徴している可能性があります。その前提で歴史を見直すならば、八岐大蛇と呼ばれた巨船の中から見出された「草薙剣」こそ、大陸より船によって運ばれてきた由緒ある神聖な宝物ではないでしょうか。

「草薙剣」については、大蛇の尾に秘められていたということから、その起源を知る由がありません。しかしながら、大陸より人々が渡来して、日本の古代史が大きく展開し始めたと仮定するならば、「草薙剣」の出所も、アジア大陸に由来すると考えて何ら不思議はありません。更には歴史を遡り、古代イスラエルの族長時代、アブラハムらが所有していた杖、もしくはモーセやアロンが用いた神の不思議を実現する「アロンの杖」であった可能性も残されているのではないのでしょうか。何故なら、イスラエルの神宝として一目置かれていた「アロンの杖」は、歴史に埋もれてしまい、その所在がわからなくなってしまったからです。

「草薙剣」は一時、「八咫鏡」と一緒に伊勢にて宝蔵されていました。そしてヤマトタケルが東国を平定するために旅立つ際、伊勢神宮のヤマトヒメが、その剣をヤマトタケルに授けています。ヤマトタケルが亡くなった後、「草薙剣」は尾張の地へもたらされ、熱田神宮にて祀られました。今日でも「草薙剣」はそこで祀られているという説もありますが、熱田神宮では 668 年に草薙剣盗難事件が勃発し、新羅の僧により一度、「草薙剣」が盗難されてしまったという史実が記録されています。その後、宮中で一時期保管され、686 年に一旦は熱田神宮に戻ってきたことになっています。しかしながら、それ以降、同じ場所に収蔵され続けたかどうかは疑問です。宮中では「草薙剣」や「八咫鏡」に分身、つまりレプリカが祀られているように、盗難を避けるために熱田神宮でも、レプリカが奉納された可能性があります。外的からの攻撃に対して、ほぼ無防備に近い熱田神宮周辺の立地



条件を考えると、本物の草薙剣をそこに長期間に渡り収蔵し続けるとは考えづらいのです。「草薙剣」の真相は、歴史の渦の中に秘められたままになっています。

イスラエルにも存在する三種の神器

1981年、「レイダース失われた《聖櫃》（アーク）」という映画が世界的に大ヒットしました。この映画は、シナイ山頂で神がモーセに語った十戒を書き記した石の板が収蔵されている「契約の箱」の行方を探し求めるアドベンチャーの物語です。聖櫃とも呼ばれる「契約の箱」は紀元前7世紀ごろ、北イスラエル王国と南ユダ王国の崩壊とともに姿を消し、未だに発見されていません。歴史の謎に包まれた聖櫃であるだけに、その秘蔵場所を見出す為に、これまで無数の人々が世界中を散策し、多くの物議を醸してきました。それほどまでに聖櫃と神宝はイスラエルの歴史において注視され続け、特にユダヤ教やキリスト教の信者にとっては重要な意味を持っていました。

聖櫃は、イスラエルの民が聖地、エルサレムに辿り着くまでは、幕屋と呼ばれる簡易的に移動できる場所の中に置かれていました。そして聖櫃の側面には金属のリングが設けられ、移動する際にはこのリングに2本の長い木の棒を通して運ぶことが義務付けられていました。その外観は日本の御神輿に大変よく似ています。つまり、日本の御神輿を担ぐのと同様に、複数の人々が棒を肩にかけて担いで移動しながら、聖櫃は遠く離れた荒野からエルサレムまで運ばれたのです。そしてエルサレム神殿に設けられた「至聖所」と呼ばれる大祭司しか入ることの許されない最も神聖な場所に一時、奉安され、イスラエルの民は神を拝し祀っていたのです。

聖櫃と呼ばれる契約の箱には、実際に3種類の神宝が収蔵されていたと語り継がれています。新約聖書のヘブライ人への手紙を見ると、「そこには金の香壇と全面金でおおわれた契約の箱とが置かれ、その中にはマナの入っている金のつぼと、芽を出したアロンの杖と、契約の石板が入れてあり、箱の上には栄光に輝くケルピムがあって、贖罪所をおおっていた。」(9章4-5節)と明記されています。イスラエルの民は遠い昔から、これら3種類の神宝を聖櫃に収蔵し、祭祀活動の基点としていたのです。そして聖櫃のそばにはモーセ五書が常に置かれ、仮庵祭ではその巻物を取り出されて、朗読されました。神の王座の象徴である聖櫃に、契約が彫られた石板と、アロンの杖、金で铸造

されたマナの壺が収蔵されていたことから、イスラエルにも「三種の神器」が存在したと言って、間違いはなさそうです。

しかしながら、ダビデ王の子、ソロモン王がエルサレム神殿を建設し、そこに聖櫃を安置した際には、それらのうち、アロンの杖とマナの壺は既に紛失していました。歴代誌下5章に、「箱の中には石の板二枚のほか、何もなかった。」と記載されているとおりです。どこに持って行かれてしまったのでしょうか。巡りめぐって、それらイスラエル神宝が日本に持ち込まれた可能性はあるのでしょうか。果たしてイスラエルの神宝は、皇室のシンボルである「三種の神器」と関連性があるのでしょうか。イスラエル神宝の形状や、それらの存在目的は、「八咫鏡」、「草薙剣」、そして「八尺瓊曲玉」に類似している点が多いことからしても、日本固有の神宝と考えられていた「三種の神器」のルーツは、再考の余地がありそうです。

「八咫鏡」と「契約の石板」については、形状や材質は違うものの、薄い板状のものであることには変わらず、また、神の戒めである十戒を彫った石の板は心の指針であり、鏡は自らの姿を見て、心をも映すものであると考えられること等の主旨にも、類似点を見出すことができます。もし本当に「八咫鏡」の裏にヘブライ語で文字が書かれているとするならば、それが何よりも、ユダヤルーツの証拠となります。しかしながら「八咫鏡」に強い関心を持っておられた三笠宮殿下も、今や沈黙を保たれたままであることから、真相を解明することが難しくなりました。

次に「八尺瓊曲玉」と、イスラエルの民が40年もの間、荒野で旅をしていた時に、神が天から与えたマナという甘いパンのような食べ物を入れる「金のつぼ」とを比較検討してみました。まず、「八尺瓊曲玉」の形状については、「金のつぼ」よりもむしろ、モーセがアロンに胸掛けを羽織らせた際、その中にいれたウリムとトンミムという小さな石に類似していると考えられます。それはイスラエルの祭司が神に近付き、神の答えを必要とするときに身に纏うようになったものです。ところが、北イスラエル王国と南ユダ王国が滅びた後、イスラエルの伝承によると、ちょうど時を同じくしてウリムとトンミムは用いられなくなりました。もしかして、それらは国外に持ち出され、日本において「八尺瓊曲玉」の基になった可能性があります。

また、「金のつぼ」はマナを収納する容器ですが、それは神の救いの象徴という点において

「八尺瓊曲玉」と共通しています。イスラエルの民は、神からマナを与えられることにより、飢えから救われ、生き延びることができたのです。よって、マナは神の救い、そのものであり、それを収納する「金のつぼ」は、神の御加護を象徴します。その意味において、曲玉を連ねた「八尺瓊曲玉」も同様に、神の救いにより頼む御守りの象徴であることは、注目に値します。

アロンの杖と草薙の剣の関連性

契約の箱の中には十戒が刻まれた「契約の石板」と「金のつぼ」以外に、イスラエルの民がエジプトを脱出する際にモーセが海を分けて、民が逃げ伸びる道を作った時に掲げた奇跡の杖が秘蔵されていました。この神の杖をもってモーセはエジプト王の前で、それを一瞬にして蛇に様変わりさせるような奇跡を起こしたのです。その後、杖はアロンに手渡されたことから、「アロンの杖」と呼ばれるようになりました。西アジアで放牧民であったイスラエルの民にとって、家畜を養うために日々、使用する杖は権威の象徴もありました。その杖に神の力と権威が付加されたのが「アロンの杖」だったのです。どの時点で、「アロンの杖」が聖櫃の中に納められるようになったかは定かではありません。聖櫃がエルサレム神殿に正式に収蔵されたのは、ダビデ王の子であるソロモン王の時代であることから、アロンの杖が聖櫃の中に納められるようになったのは、その時代からとも考えられます。

イスラエルの過越祭で読まれるハグガーダーの伝説によると、「アロンの杖」のルーツは創生記の時代まで遡り、アダムからエノク、アブラハム、イサクそしてヤコブへと手渡されたということです。そしてエジプトにてヨセフが宰相の地位を得て国家を統治した後、モーセの義父テロがその杖を地に差し、誰もその杖を地の岩から抜くことができませんでした。その後、モーセは杖に書いてある神の名を唱えて杖を地から抜き取り、神の命に従ってイスラエルの民をエジプトから脱出させ、約束の地へと導きました。そして「アロンの杖」は聖櫃と共に移動し、最終的に前7世紀、南ユダ王国のヨシヤ王の時代に国家の滅亡を察知した王により、聖櫃と、その中に奉納されていた神宝はどこかに移設され、メシヤが到来して預言者エリヤが公開するまでは、秘められることになったと言われています。

聖書解釈の権威でもあるミドラシュでも、ヤコブの杖とユダがタマルに与えた杖は同一であり、

尚かつ、それがモーセの杖であり、「アロンの杖」となったことが証されています。その後、杖はダビデに引き継がれ、ダビデはその杖をもってゴリアテと呼ばれた巨人を斬ったと語り継がれてきました。そして「アロンの杖」は王権を象徴する王笏として、ダビデ王の時代以降、代々の王によって重宝されたと記載されています。

ここでまず注目したいことは、南ユダ王国が滅亡する直前に、「アロンの杖」がどこかに隠されたという伝説が存在したことです。日本の国生みは、南ユダ王国が崩壊する時期と重なり、当時、西アジアを脱出して列島まで渡来した民が少なからず存在したと考えられることから、「アロンの杖」が日本に持ち込まれた可能性が見えてきます。また、「アロンの杖」は、実際にはゴリアテを斬ることができるほどの鋭い剣であり、多くの奇跡を成し遂げたことからしても、「草薙の剣」の働きと類似しています。

次に、「草薙剣」という言葉に注視してみました。「くさなぎ」という言葉は一見、日本語のように聞こえますが、草を薙倒したことから「草薙」と命名されたというのは、こじつけのようであり、いささか不自然です。もしかして「草薙」はנִינְגִישׁ (Cush Nagid、クシュナギッド) というヘブライ語に由来している可能性があります。するとヘブライ語での意味は、「クシュの王子」となります。「クシュ」とは古代、エジプト南方からエチオピア周辺の地域に存在し、クシュ人はそこからアラビア、バビロン、ペルシャへと移動したと言われる、いわゆる人類祖先の地です。

通説によると、東北アフリカにて人類の祖先は誕生したと言われ、それはエチオピア周辺の大湿地帯の周辺であった可能性が指摘されています。既に15万年前と推定される最古のサピエンス人骨がエチオピアで発掘され、また、昨今のミトコンドリアDNA解析においても同時期、アフリカにおいて現代人の共通祖先が存在したということがわかってきました。更に、最も古いと言われるヒト科の化石もエチオピアで発見され、類人猿から直立歩行した猿人への進化が500-600万年前頃ではなかったかと推定されるようになりました。その人類最古の人々が存在した東北アフリカの地域に移住したのが、旧約聖書に登場するハムの息子、クシュであり、ノアの孫にあたります。よって、エジプトの南方からエチオピア周辺の地域は「クシュ」と呼ばれるようになったのです。もし「アロンの杖」が「クシュナギッド」(草薙)であったとするならば、イスラエルで語

り継がれてきたハグガーダーの伝説の通り、「アロンの杖」のルーツが人類の創生にまで遡り、「クシュナギッド」として元来、人類最古の民が住まう地に由来する王子の剣であったと考えることができます。その後の歴史において、「クシュナギッド」とも呼ばれた最古の神剣は、モーセ、ヨシュア、ダビデ王らに引き継がれ、奇跡的に日本にまで運ばれた後、スサノオが手にして、天照大神に献上したと想定してみてもどうでしょうか。草薙剣はユダヤルーツとの関わり合いがあるだけでなく、イスラエルの伝承が証するように、人類の最古の霊剣として、世界で最も由緒ある、偉大な神宝であった可能性を秘めています。

イスラエルの神器は「契約の箱」と呼ばれる聖櫃に収納されて移動しましたが、その契約の箱と酷似した形状である神輿が日本全土に普及している事実からして、遠い昔、大陸より何かしらの神器が日本列島に持ち込まれ、神輿によって担がれながら移動した可能性があります。「契約の箱」はイスラエル神宝と深く関わっているだけに、「八咫鏡」を含む「三種の神器」とイスラエル神宝が関連しているという指摘は絶えません。失われた「契約の箱」は2600年以上、行方がわからないままになっています。イスラエルの10部族からなる北の王国が紀元前722年に、そして2部族からなる南ユダ王国が紀元前586年に滅亡するまでの間、国家が崩壊していくプロセスの中で、聖櫃がいつの間にか姿を消してしまったのです。

ちょうど時期を同じくして紀元前7世紀ごろ、日本列島においては神武天皇を初代天皇とする新しい時代が始まりました。そして天孫降臨と共にもたらされた神器をもって皇位が保証され、国の歴史が育まれていったのです。また「契約の箱」は、ヘブライ語の原語において「船」という意味を持っていますが、日本でも神器を収める御器を「御船代」と呼ぶのは、偶然とは思えません。そしていつしか日本の島々では、各地で人々が神を祀り、お祝いをする際には神輿が担がれるようになり、群集が大声で「ヨイショ」と掛け声をかけながら、力の限り大地を巡り回ったのです。その神輿こそ、聖櫃を基にデザインされたものに他なりません。イスラエルが崩壊した直後、突如として神宝を携え、神を祀ることを常とする人々による新しい国の歴史が、アジア大陸の東のはずれに浮かぶ島々で始まりました。この見事なリズムの背景には、「日本とユダヤのハーモニー」のメロディーが込められているように思えてなりません。(文・中島尚彦)

室内でも室外でも活躍する音響機器!

PA10/4
クラシックプロ 商品 ID:25720

ミキサー
+
スピーカー
+
マイク(1本)

講演会やイベント、
ステージ用途に最適!
箱を開けてセッティングすれば、
すぐに音出し可能。マイクは
合計 4 本まで接続可能です!

23,800円
(税込 25,704円)

スピーカーケーブル &
マイクケーブル付属!



持ち運びラクラクな
コンパクトセット

※マイク1本付属

ミキサー、スピーカー、ケーブル等を1つに収納可能。
コンパクトにまとまりキャスター付きで持ち運びも楽々

PAeZ **34,800円**
(税込 37,584円)
PORTABLE PA SYSTEM

ワイヤレスマイクセット
クラシックプロ
CWM801S PLUS
28,500円
(税込 30,780円)
送信機内蔵・高品質マイクと受信機のセット!

株式会社サウンドハウス
〒286-0825千葉県成田市新泉14-3 (野毛平工業団地内)
TEL:0476-89-1111 / FAX:0476-89-2222
www.soundhouse.co.jp

ショールームでお持ちしています!
サウンドハウス
R308 至十
R511 至十
R295 至十
《営業時間》
平日 10:00~19:00
土曜 12:00~17:00
日曜・祝日 休業

他にも色々取揃えています!

カリフォルニアの美味しい水 アクアヴィル

AQUAVILLE

2ケースセット! 計 48 本

500ml ボトル 24 本入



2ケース
税・送料込 **1,858円**

※一部離島を除く

◀携帯でのご注文はこちら

フィットネスハウス **0476-89-3111**



ホール配膳スタッフ募集

〔業務〕レストランのホール&キッチン、フロント受付
〔資格〕車通勤可(大駐車場完備)、未経験者も歓迎
主婦の方が多数活躍中です
〔時間〕10:00~22:00 内で、週 4 日以上
1 日 5~8 時間のシフト制(応相談)
〔給与〕時給 900円
〔待遇〕社保完備、従業員家族を当館へ無料優待
〔応募〕電話連絡の上、履歴書をご持参下さい



大和の湯
〒286-0841
千葉県成田市大竹 1630

お問合せ **0476-28-8111**
e-mail: info@yamatonoyu.com (担当:採用係)

隠れ家的
大人の
天然温泉
リゾート

成田の命泉
大和の湯
y a m a t o - n o - y u

大和の湯 - 効能 -

腰痛、神経痛、筋肉痛、関節痛、アトピー、五十肩、
うちみ、運動麻痺、関節のこわばり、肌あれ、くじき、
痔症、冷え症、慢性消化器病、後回復期、切り傷、
疲労回復、健康増進、やけど、風邪の予防など

お肌もイキイキ。天然の癒し空間。

今夏のおすすめ



■赤ワイン
シャトー・メルシャン
アンサンブル 藍茜(グラス)
■白ワイン
シャトー・メルシャン
アンサンブル 萌黄(グラス)
数量限定...各480円
※この他に焼酎、日本酒もご用意
※なくなり次第終了となります
■生ビール
ザ・プレミアムモルツ(グラス)
390円
営業時間 11:00~22:00(ラストオーダー 21:00)



お酒をより美味しく
珍味三種盛り..... 600円
茶豆..... 300円
チーズ三種盛り..... 800円

Yayoi SPA
& FITNESS

YAYOIスパ&フィットネス
アジアムード溢れる個室で
一流施術師によるくつろぎの時間



【アロマテラピー】

さまざまな植物の香りや働きを力
かりて、健康増進や美容に役立てて
いこうとする自然療法、精油の香りと
施術師のトリートメントにより心身ともに
リラックスした時間をお過ごしください

◆ボディ..... 3,200円(30分)~
◆フット..... 1,800円(15分)~
◆アロマ..... 4,000円(30分)~
◆フェイシャル【小顔コース】
アンチエイジング 5,000円(45分)
効果も期待できます 6,800円(60分)

価格据え置き
■入館料 平日: 700円
土日祝: 1000円
※小中学生の入館料: 300円(大人同伴の入館の場合)
■営業時間 10:00~22:00
※年中無休(全館禁煙)



www.yamatonoyu.com
TEL 0476-28-8111

未就学児の入館は
ご遠慮ください



WEB サイト案内

日本シティジャーナルをご覧いただきありがとうございます。
本紙のバックナンバーは WEB サイトにてすべてご覧頂けます。
連載中の歴史に関するコラムは最新情報に随時更新して
スペシャルサイト「日本とユダヤのハーモニー」にまとめて
あります。ご意見・ご要望等をお待ちしております、FAX や
ホームページからお寄せ下さい。

日本シティジャーナル: <http://www.nihoncity.com/>
日本とユダヤのハーモニー: <http://www.historyjp.com/>



編集後記

全世界が燃えたワールドカップ、といっても日本
代表はあえなく惨敗。それでも見るだけで凄い!
と思える程、激戦の連続に興奮しました。特に
驚いたのは、コスタリカやアメリカのようにランクの
低いチームが善戦したこと、そして、世界的な
ストライカーのネイマール選手が脊髄を骨折した
ことです。まさかの不運を見て、心が凍結して
しまったファンも少なくなかったでしょう。そして
ドイツ代表の見事なまでのブラジル戦勝利。
勝負は最後まで分からないといえども、これまでの
意外な展開を考えると決勝がますます楽しみです。

NCJ 編集長 中島 尚彦
1957 年東京生まれ。14 歳で
米国に単身テニス留学。ワートン
ビジネススクール卒業後、ロス
アンゼルスにて不動産デベロッ
パーとして起業。ビジネス最前線で
活躍する。1990 年に帰国後、
成田にサウンドハウスを立ち上げる。
現在ハウスホールディングス代表。
日本シティジャーナル編集長を
兼務。趣味はアイスホッケーと
読書。ここ数年は「日本とユダヤの
ハーモニー」の執筆に動む。

